

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「**どちらかと言えば当てはまる**」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	77.2%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	78.9%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	78.9%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	75.5%	84.9%

いずれの項目において、全国平均を下回る結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	14.0%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.3%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	22.8%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	26.3%	27.4%
「30分より少ない」	12.3%	12.9%
「全くしない」	12.3%	5.7%

約半数の児童は、6年生の家庭学習時間の70分を達成しています。しかし、1時間未満の児童が半数おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

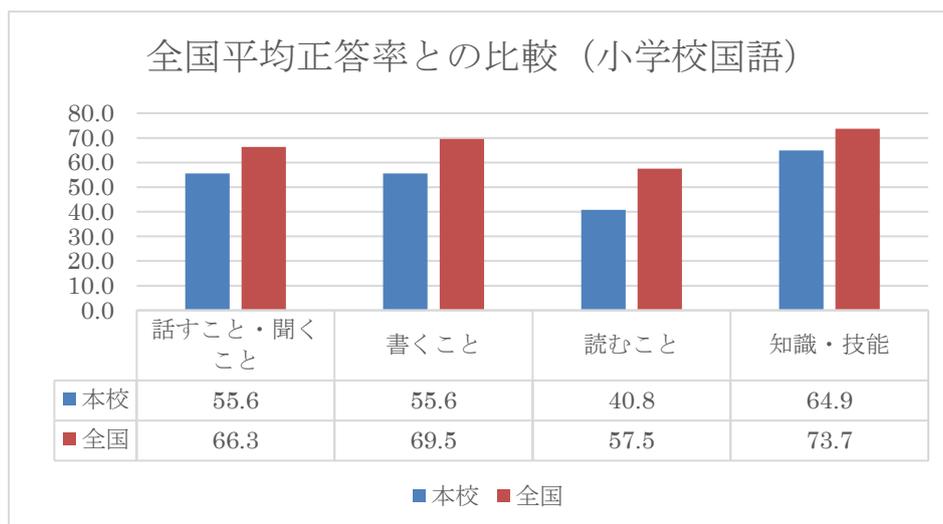
【学校では】

- 授業と家庭学習を通して、児童の主体的な学びを目指しています。授業の終わりに、児童が学習を振り返り、家庭で取り組むことを考える時間を設定しています。児童が取り組んだ学習について、内容や過程、態度を誉めたり、励ましたりします。
- 道徳科を中心にした道徳教育に取り組んでいます。毎月「こころの時間」を設けて、自分を見つめ直し、自分の成長や友達のよさを振り返るようにしています。

【ご家庭では】

- 学年に応じた家庭学習の時間(10分×学年+10分)を設定しています。子どもが自ら考えた取組に対して、「よくがんばったね。」「ここは、もう一度チャレンジするといいよ。」等励ましや見守りをお願いします。
- 「早寝・早起き、朝ご飯」を合い言葉に、規則正しい生活習慣の定着をお願いします。川副中校区の「親子で確認 情報モラル三つのめあて」をもとに家庭でのルール作りも、学習習慣の定着に欠かせません。

2 国 語



(1) 結 果

ほぼ全国平均より下回る結果でした。特に「読むこと」は、全国平均正答率を大きく下回っています。無解答率をみると、全ての問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」が約14ポイント、「読むこと」が約17ポイント、全国平均正答率を下回りました。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。根拠を明確にして自分の意見を書くことを苦手とする児童が多くいます。また、いくつかの資料と比較しながら関連づけて文章を正しく理解することに課題があります。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

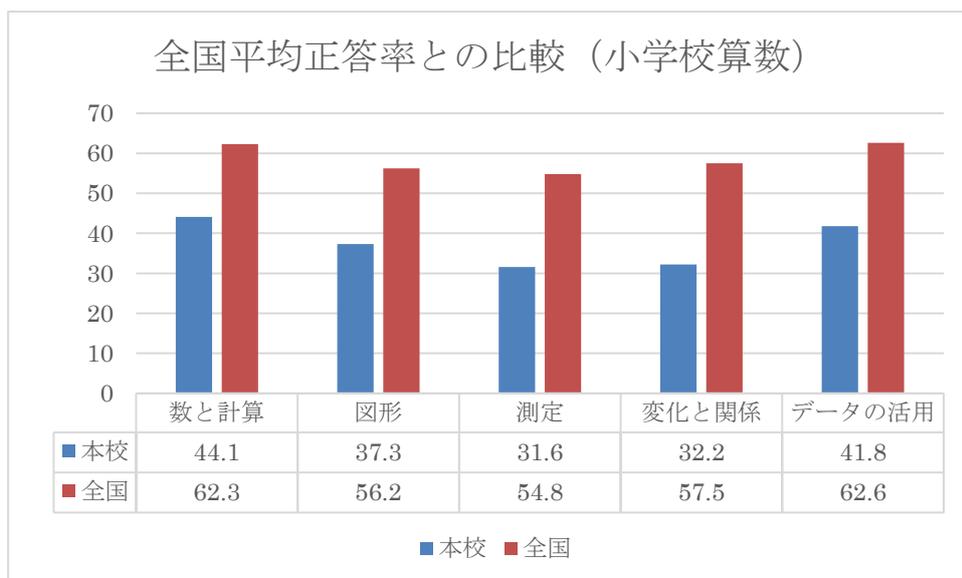
【学校では】

- 意見の根拠を問うようにし、考えの交流により、多様な考えに触れる活動を授業場面で設定します。
- 一斉読み、一文読み、段落読み、タケノコ読み等、様々な音読を通して、語彙力・読解力につなげるようにします。また、問題文を読むとき、大事な言葉に印をつけながら読むよう指導していきます。
- 児童自身が「何をすべきか」「どうなるべきか」という意識で取り組める授業づくりを行い、終末で自分の学びについて振り返る時間を設け、授業と家庭学習のつながりを意識させます。

【ご家庭では】

- 家庭学習内容は、授業の振り返り等の中で自分に必要な内容を決めて取り組みます。「読み・書き・計算」の基礎基本の定着や、学習意欲を高めるために、「自分からやっているね」「できるようになっているね」の励ましや声かけをお願いします。
- 言葉や文章に触れる音読を大切にいきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。家庭の中で本や新聞を身近に置いたり、学校での様子などたくさん聞いたりしてください。

3 算数(数学)



(1) 結果

全ての領域で全国平均を大きく下回っています。特に「測定」「変化と関係」の領域では全国平均との差が20ポイント以上ありました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「D 変化と関係」の領域の、「10%増量したハンドソープの量は、増量前の何倍か」の設問では、1割の児童しか正答していませんでした。10%=0.1は理解しているものの、文意理解が難しいようです。伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題解決のために必要な事柄を判断することはできますが、求め方を式や言葉を使って表現する力を身に付けていくことが課題です。「C 図形」領域では、向きが変わると、図形の定義に基づいて図形を弁別することが難しく、定義の理解と量感を身に付けていくことが必要です。

(3) 学力向上のための取り組み

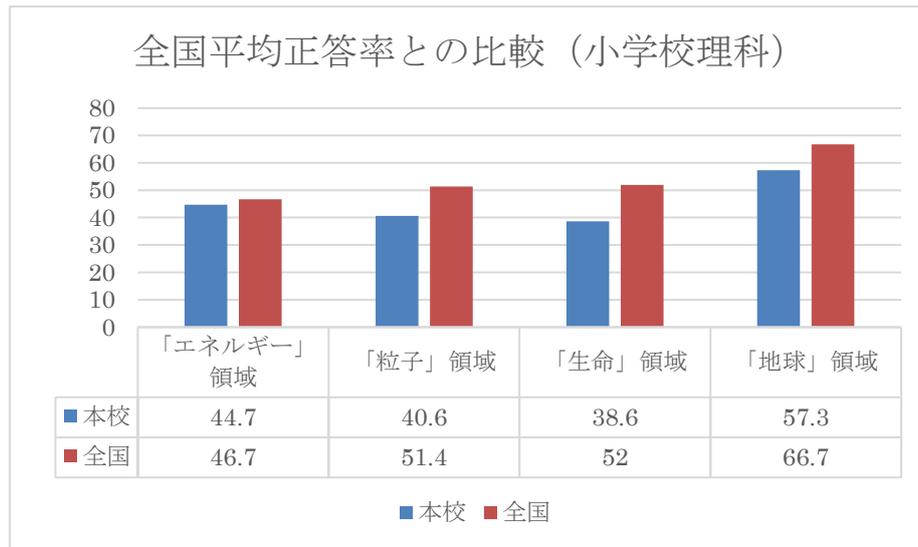
【学校では】

- 問題文では、分かっていること・尋ねていること・単位等、大切なところに印をつけながら読む習慣をつけるよう指導します。式、絵や図、具体的場面を行き来させ、児童が考えを交流する場を設け、学びを深めるようにします。
- 授業や家庭学習で、一人1台端末を活用し、自分の課題に応じて基礎基本の問題や習熟問題に取り組むことで「できた」「分かった」という充足感を味わわせます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の家庭学習の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を意識するような声かけをお願いします。「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識させるだけで、時間の感覚や、重さやかさなどの量感が身についていきます。

4 理科



(1) 結果

全国平均よりやや下回る結果でした。「生命」領域では、全国平均より約15ポイント低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」の領域の乾電池を2個を直列につなぐつなぎ方を選ぶ問題の正答率が全国平均正答率を11.6ポイント上回っていました。全体的に見ると、学習した内容（知識）について選択する問題の正答率が高くなっていました。しかし、自然現象から得た情報を分析し、根拠を伴った解答をする問題や、学習したことを活用して解答するような記述式の問題では、全国平均正答率を下回るなど課題がみられました。日々の授業で、説明する活動や各活動など継続して取り入れ、根拠を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、根拠などをクラス全体で共有する場面を設定することで、記述力・思考力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 身の回りで起こる現象に対して、「なんでこうなるんだろう？」と疑問をもち、調べてみたり、授業で学習したことが身の回りで起きていることを見つけたりすることが、理科を好きになるきっかけになることがあります。
- 佐賀県には、佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館、星空学習館など理科に関係する施設がたくさんあり、イベントなども行っています。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。